第１８回浜松市調べ学習コンクール審査結果について

１　開催趣旨

図書館の本やインターネット等様々な情報を使って、日常生活や学習上の疑問点を考え、解決を導く「調べ学習」の研究レポートを募集し、その努力や工夫を評価することで、調べ学習の振興を促す。これにより、小学生の「問題発見・解決能力」や「情報活用能力」等、新しい時代に求められる資質・能力を養うとともに、図書館利用の促進を図る。

２　主催

浜松市、浜松市教育委員会

３　後援

一般社団法人浜松青年会議所、公益財団法人図書館振興財団

４　対象

浜松市内の小学３～６年生

５　審査員

浜松市退職校長親和会及び主催、後援団体から選出した１３人（うち一人は審査委員長）

６　応募数

（１）応募学校数　　８６校

（２）応 募 点 数　　１，２５６点

学　年	応募人数
３年生	２０２人
４年生	２９８人
５年生	３６１人
６年生	３９５人

７　表彰

（１）市長賞、教育長賞、中央図書館長賞　　各１人

（２）優秀賞　　各学年２人　　計　８人

（３）優良賞　　各学年３人　　計１２人

（４）奨励賞　　各学年５人　　計２０人

（５）学校賞　　５校

８　表彰式

（１）日　時

令和８年１１月３日（火）　午前１０時００分～午前１１時００分

（２）会　場

浜松市立中央図書館　２階　大会議室

９　作品傾向

・時事、社会問題（ＡＩ、税金、W杯）
・自然、環境、災害（天気・気象、ごみ、身近な植物、星座、地震、防災）
・郷土関係（徳川家康、お茶、みかん、餃子）
・歴史、文化（各地の史跡、歴史上の人物、戦争）
・国際理解、地理（ＳＤＧs、特定の国の歴史や暮らし）
・生き物（昆虫、猫、犬、トカゲ）
・社会、福祉、人の暮らし（ユニバーサルデザイン、特定の職業について）
・からだ、病気、健康（風邪、免疫、アレルギー）

10　全国コンクールへの出品

市長賞、教育長賞、中央図書館長賞、優秀賞、優良賞の計２３点のうち、上位三賞及び優秀賞ならびに優良賞の一部、計１９点は全国コンクールに出品。

上位三賞受賞作品のあらましと評価について

【市長賞】

作品名

「戦争の記憶は、どうすれば未来の平和につながるのか？～浜松大空しゅうを３年間調べて見えてきた！世界遺産になったノルマンディー上陸作戦と比べて分かった事」

浜松市立三方原小学校　６年　杉山　藍衣子

（作品あらまし）

小学４年生で戦争について調べ始め、５年生で「なぜ次世代に伝えるのか」と疑問を持ち、６年生で「戦争の記憶は未来の平和にどう繋がるか」をテーマに研究を深めた。浜松大空襲とノルマンディー上陸作戦を比較調査。また、空襲後の赤痢被害や水道復旧の重要性、まつり再開が復興を支える力になることを発見。戦争の地が文化遺産となることで、平和の大切さを強く考えられることに気付いた。３年間の調査を通じ、学びの本質と継続することの重要性を得た。

（評価）

３年間『戦争』を継続研究した重みが感じられる作品。単なる調査にとどまらず、戦争から自分たちに何ができるかを考察。多くの学びを深め、自分の思いを表現した３年間の集大成と言える力作である。

【教育長賞】

作品名

「拝啓曽祖父様～未来へつないでいく想い～」

浜松市立広沢小学校　６年　大谷　香遥

（作品のあらまし）

特攻隊を題材とする映画鑑賞をきっかけに、戦争で出兵した曽祖父と特攻隊について調べ始めた。第二次世界大戦下の国民生活を研究し、戦時中と現代のすいとんを作り食べ比較。浜松の戦時体験や特攻記念館を訪れ、曽祖父の環境を探った。調査を通じ、曽祖父が戦後も平和実現のため戦争報道記事を切り抜き続けていたことに気付き、平和は個々の努力で実現されるものと悟った。作品は曽祖父への手紙で結ばれている。

（評価）

戦争を資料に基づき深く掘り下げ、写真を効果的に活用した分かりやすい作品。曽祖父への思いを通じて先祖と戦争を結び、平和への願いにまとめた。豊富な資料、見学、体験から調べ学習の成果が最後の手紙に反映されている感動的な作品。

【中央図書館長賞】

作品名

「私の涙はきれいなの！！」

浜松市立鴨江小学校　４年　岩本　菜生

（作品のあらまし）

母親に、涙でこたつ布団を汚さないでと注意されたことから、「自分の涙はきれい」であることを証明したいと考えた。母親へのインタビューで涙が汚いと思う理由を探り、涙と鼻水の違い、感情による涙の発生メカニズムを調査。家族の協力を得て、怒りの涙、感動の涙、玉ねぎの涙を顕微鏡で観察し比較した。さらに涙の成分を分析した結果、涙の９５％が水分であることを発見。科学的根拠に基づき、自分自身の涙がきれいであることを実証した。

（評価）

テーマが素朴でこどもらしく、着眼点にオリジナリティがある作品。資料から根拠を見つける力が身に付いており、涙を顕微鏡で観察する調べ方は驚いた。絵や表も効果的に使い、見やすく工夫してまとめられている。